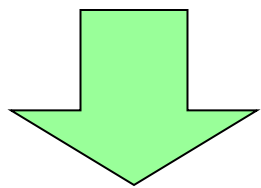


# 諫早市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年7月～25年9月)

## 【中心市街地を巡る状況】

- まちなかを貫流する本明川、高城城址や眼鏡橋（重要文化財）を有する諫早公園など、自然・歴史資産を有する
- 江戸時代に整備された長崎街道の分岐点で、現在もJR長崎本線、JR大村線、島原鉄道が結節する交通拠点（今後長崎新幹線も整備予定）
- 隣接市の大型店舗の影響等により、中心市街地の大型店が撤退（規模を縮小して「アエルいさはや」として再生）



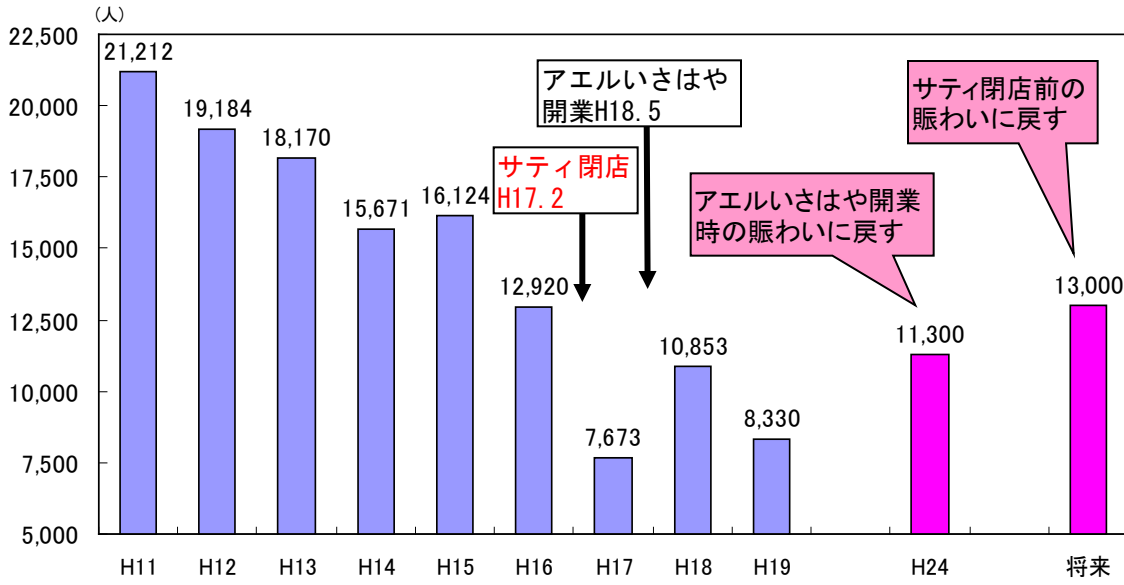
- 歩行者通行量（休日）の減少（アエル中央商店街）  
H11:21,212人 → H19:8,330人（60.7%減）
- 居住人口の減少  
H11:3,559人 → H19:3,421（3.9%減）

## 【目標】

目標	指標	現況値	目標値 (H24)
賑わうまち	歩行者通行量 アエル中央商店街4地点 (休日)	8,330人/日 (H19)	11,300人/日
人が集うまち	島原鉄道乗降客数 (本諫早駅)	30.41万人/年 (H18)	36.12万人/年
安心して生活できるまち	居住人口	3,421人 (H19)	3,700人

### (歩行者通行量(休日)の推移)

アエル中央商店街4調査地点の合計(毎年11月の日曜日に調査実施)

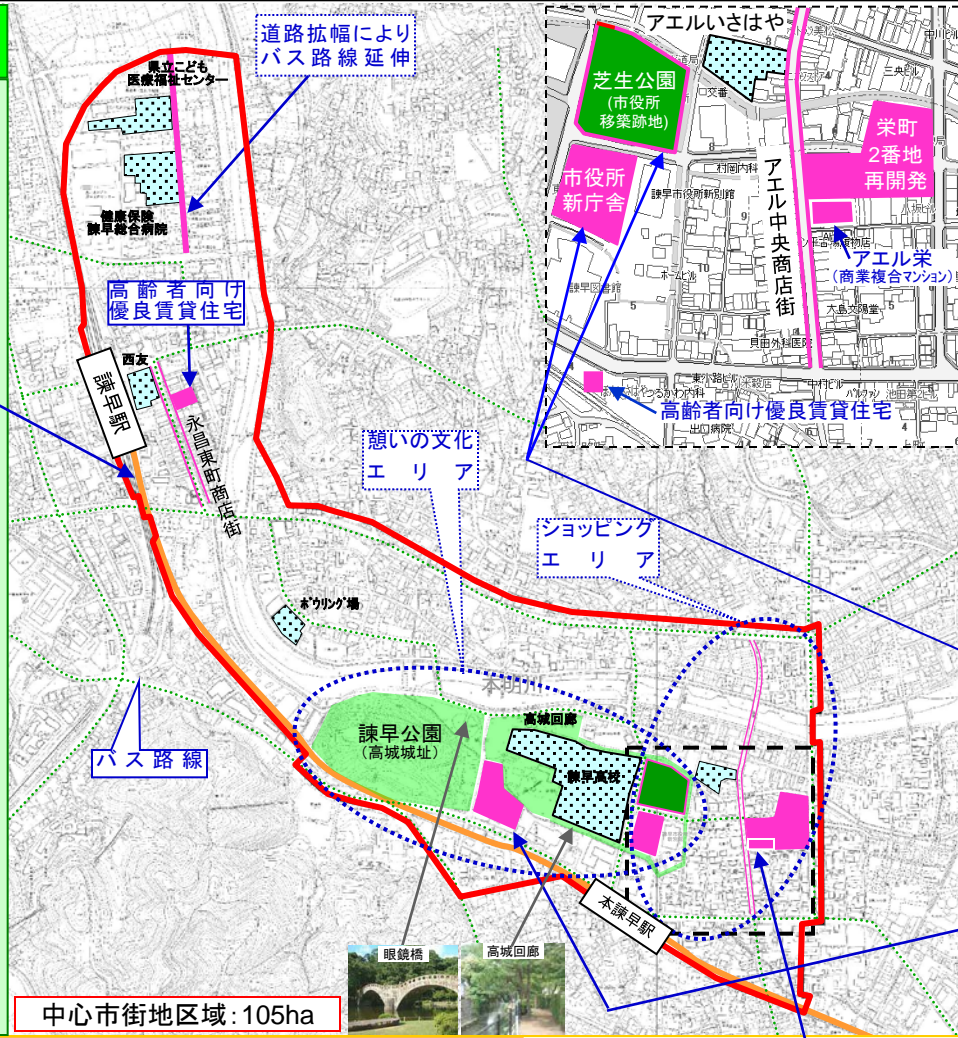


川沿いに形成された南北に細長い中心市街地であるなか、南北を繋ぐ島原鉄道の運行本数の増加や南北商店街の共同サービスなどの連携、並びに、市民ニーズの高い大型商業施設の再開発により、「来やすいまち・来たくなるまち」を実現し、賑わいの回復を目指す。

# 諫早市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## 人が集うまち

- 島原鉄道のダイヤ改善により**運行本数・急行本数の増**によりアクセスの向上を図る
  - ・諫早駅～島原駅(41km)  
運行本数(本/日): 23→29  
うち急行(本/日): 3→17  
<平均71分→57分:  
約14分短縮>
- JR諫早駅のバリアフリー化及び本諫早駅のリニューアルにより、公共交通の利便性の向上を図る
- 東西両商店街(アエル中央と永昌東)が**スタンプカードの相互利用**を導入し、島原鉄道回数券や共通商品券との交換サービスにより集客を図る



## 賑わうまち

- 既存商店街の**再開発**により、市民ニーズの高い大型商業施設を誘致し、集客の核とする
  - 栄町東2番地再開発
  - アエル栄 (商業複合マンション)
  - 駐車場
- 市役所の移築跡地を**芝生公園**として整備し、本諫早駅西側の憩い文化エリアと東側のショッピングエリアとの連続性を高める。
  - 高城回廊
  - 本諫早駅
- 幼稚園、体育館の跡地を活用し、諫早の歴史を後世に伝える**歴史文化館**等を整備する
- 地元大学や商業高校と商店街が連携し市民まちづくりのサポート事業(まちづくり工房)や販売実習「諫商商店街」を実施
  - 「アエル栄」

## 安心して生活できるまち

- 再開発事業により店舗一体となった**複合マンション「アエル栄」**の整備や**高齢者向け優良賃貸住宅**の整備により、まちなか居住を促進する
- 病院・福祉関係の公益施設へ通じる道路拡幅により**バス路線を延伸**し生活の利便性の向上を図る

